

様式1

大学等名	日本国際学園大学
プログラム名	日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「情報基礎A 情報リテラシー（2単位）」、「情報と社会（2単位）」、「AI・データサイエンス概論（2単位）」の3科目6単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

3

科目

6

単位

履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報基礎A 情報リテラシー	2	○		○					
情報と社会	2	○		○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					
情報と社会	2	○		○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報基礎A 情報リテラシー	2	○	○	○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報基礎A 情報リテラシー	2	○		○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					
情報と社会	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○	○						
情報と社会	2	○		○							

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「AI・データサイエンス概論」（1回目） ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「AI・データサイエンス概論」（1回目） ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「情報と社会」（1回目）
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど）「情報基礎A」（10回目）「情報リテラシー」（11回目） ・AI等を活用した新しいビジネスモデル（シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど）「情報と社会」（9回目） ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI・データサイエンス概論」（6回目）
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「AI・データサイエンス概論」（8回目） ・1次データ、2次データ、データのメタ化「AI・データサイエンス概論」（8回目） ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など）「AI・データサイエンス概論」（8回目） ・データ作成（ビッグデータとアノテーション）「AI・データサイエンス概論」（2回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）「AI・データサイエンス概論」（2回目）、「情報と社会」（13回目）
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「AI・データサイエンス概論」（4回目） ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「AI・データサイエンス概論」（4回目） ・マルチモーダル（言語、画像、音声 など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング）「情報基礎A」（10回目）「情報リテラシー」（12回目）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案）「AI・データサイエンス概論」（5回目） ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報基礎A」（12回目）「情報リテラシー」（11回目）

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「AI・データサイエンス概論」(11回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報と社会」(9回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「情報と社会」(9回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報基礎A」(2回目)「情報リテラシー」(2回目) ・サイバーセキュリティ「AI・データサイエンス概論」(12回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザー認証とパスワード、アクセス制御、悪意ある情報取得「情報と社会」(2回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ「AI・データサイエンス概論」(8回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「AI・データサイエンス概論」(9回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「情報と社会」(4回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化をすることによって新たな気づきがあった事例など)「情報と社会」(4回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「AI・データサイエンス概論」(10回目) ・データの集計(和、平均)「AI・データサイエンス概論」(10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 284 人 女性 96 人 (合計 380 人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営情報学部・ビジネスデザイン学科	380	200	800	121	0											121	15%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	380	200	800	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	121	15%

大学等名 日本国際学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 36 40 人 (非常勤) 25 31 人

② プログラムの授業を教えている教員数 7 6 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 高藤 清美 (役職名) 上級副学長・経営情報学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
日本国際学園大学データサイエンス教育プログラム委員会
(責任者名) 高藤 清美 (役職名) 上級副学長・経営情報学部長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程

⑥ 体制の目的
日本国際学園大学(以下「本学」という。)にデータやAIを活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム(以下「教育プログラム」という。)を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成することを目的とする。

⑦ 具体的な構成員
委員長 上級副学長・経営情報学部長・~~つくばキャンパス長~~ 高藤 清美
委員(自己点検責任者) 国際センター長 教授 山島 一浩
委員 ICT企画室長 准教授 パンタ ボーラ
委員 仙台キャンパス長 教授 倉橋 節也
委員 教務委員長 講師 野田 美波子
委員 助教 丸山 雅貴
~~委員 講師 キャンパスアドバイザー 笹島 司~~
~~委員 教授 谷本 茂明~~

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	15%	令和7年度予定	30%	令和8年度予定	50%
令和9年度予定	80%	令和10年度予定	95%	収容定員(名)	800
具体的な計画					
本教育プログラムの目的達成のため、既に開講している授業科目を中心として、本学データサイエンス教育プログラム委員会で検討を重ね、本学在籍学生を含めて広く数理・データサイエンス・AIを理解し、知識を重ねられるようプログラム開発を実施している。 令和6年度には、1年次必修科目として「情報と社会」、「情報基礎A」「情報リテラシー」を開講し、全学生に履修させ、本教育プログラムにおいて2年次以降に選択必修科目として「AI・データサイエンス概論」を積極的に履修するよう推奨した。 令和7年度には、本学が設定する9履修モデルにおいてカリキュラムツリーで核となる科目の1つに位置づけ、特に履修するよう指導していくこととしている。 令和8年度以降は、本学入学者の全てが本教育プログラムを履修し、可能な限り多くの学生が修了できるよう、学内でのプログラムの認知度を向上させるようガイダンス等を通じ啓発することとしている。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は、1学部1学科制であり、希望する学生は全員が受講可能な科目構成としている。 修了要件となる科目のうち、「情報基礎A」「情報リテラシー」、「情報と社会」は必修科目となっており、「AI・データサイエンス概論」は選択必修科目であるが、卒業要件科目として重要な位置づけを行い、ガイダンスにおいて履修するよう啓発、指導することとしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

年度当初に各学年で実施しているオリエンテーション期間中に実施するガイダンス等で、本プログラムを周知するとともに、学生全員に本教育プログラムの目的や意義を理解できるよう啓発チラシを配布することで、プログラム履修の意義を説明する。 また、「キャンパス・アドバイザー制度」を活用した個別の履修相談や情報系教員による本教育プログラムの周知のみでなく、全教員による本教育プログラム対象科目の履修を勧めてもらえるように教員へ周知し、協力を依頼する。 また、シラバスにも本教育プログラムへの参加を勧めるよう記載し、本教育プログラムの対象科目への履修登録を勧める。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、クラスの担任を兼ねるキャンパスアドバイザーが、個々の学生についての履修相談や学生生活についての相談に応じ、きめ細かく個別指導を実施している。この個別指導において、数理・データサイエンス・AI分野に興味・関心を持った学生のみではなく全ての学生に対して積極的に履修を促す指導体制を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学の専任教員は、授業時間外にオフィスアワーを設定しており、その時間に学生から質問を受け付けることができるようにしている。また、授業においても積極的に学生の疑問や質問に答えるようにしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

データサイエンス教育プログラム委員会

（責任者名） 山島 一浩

（役職名） 自己点検責任者（教授・国際センター長）

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、令和6年度に開設され、同年度に開講された本教育プログラムの修了要件科目2科目4単位（「情報基礎A」「情報リテラシー」「情報と社会」）については、令和6年度入学生のうち121名が履修し、「情報基礎A」「情報リテラシー」で108人、「情報と社会」で109人が単位修得済み（単位修得率90%）であり、令和7年度中に残り1科目2単位（「AI・データサイエンス概論」）を修得し、本プログラムの修了要件を満たすことが見込まれている。 令和6年度においては、対象学生へ本教育プログラムを開講した趣旨が浸透しているとは言えないが、対象授業科目が必修科目であることと相まって、ほぼ対象者全てが履修しおり、単位修得率90%前後と非常に高くなっている。 令和6年度には、学内の履修登録システムを通じて、本教育プログラムについての周知を図ったが、十分周知できていなかった。次年度以降は、オリエンテーションでの本教育プログラムの紹介・PRを実施し、在籍学生の履修率向上を図る。 また、データサイエンス教育プログラム委員会で、定期的にプログラムの履修・修得状況を確認・分析する体制を整え、自己点検や改善に取り組み、学生の履修を支援していく。
学修成果	本教育プログラムは、2年間をかけて履修し、単位を修得するよう設計されている。令和6年度終了の時点では、多くの学生が2科目4単位（「情報基礎A」「情報リテラシー」「情報と社会」）を修得しており、プログラムの目的は十分に満たされていると考える。 本教育プログラムの修了要件科目での修得すべき内容、目標は次のとおりである。 「情報基礎A」「情報リテラシー」では、情報に関する基本的な概念や知識、情報技術の基礎を学ぶ入門的な科目で、基本的な情報リテラシーの習得として、コンピュータの基本的な操作やインターネットの利用、情報セキュリティの基礎知識、情報モラル・情報倫理を学び、身につけてほしい知識やスキルを修得させる。 「情報と社会」では、情報技術が社会のさまざまな側面に与える影響や、情報社会における課題について考察する科目で、情報社会の構造と特性の理解、情報技術が社会の各分野に与える影響の分析、情報社会における倫理的・法的課題の考察を求める。これにより、情報リテラシーや批判的思考力の向上にもつながることが期待される。 「AI・データサイエンス概論」は、AIとデータサイエンスの基本的な概念、技術、応用について学ぶ入門的な科目で、AIとデータサイエンスの基本的な概念の理解、主要な技術の概要の理解、倫理的・社会的な課題の認識、AIとデータサイエンスに対する興味関心を喚起する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムに関する学生アンケートは実施していないため、本教育プログラムとしての学生の内容の理解度については十分評価しえないが、毎学期実施している「授業アンケート」により確認を行った結果、概ね90%の学生から、「この授業で必要な／ためになる／新しい知識・技術を得られた」との回答があった。この結果より、大半の学生は十分に内容を理解していると考えられる。 「情報基礎A」「情報リテラシー」においては、「分かりやすく説明、解説してくれた」「先生の説明はいいねいにはっきりしている」「授業のスピードがよかった」「自分でワードなどを使って実践することで、素早くスキルを身につけられた」「資料がわかりやすい」「映像など生徒が分かりやすく説明されていた」「パソコンの実技の授業などで、一人一人が分かるように丁寧に説明してくれた」「パソコンの使い方の基礎からソフトの応用的な活用方法まで人に合わせてどんどん上のレベルに行けた」との意見がみられた。 「情報と社会」においては、「先生の話し方が聞き取りやすくて良かった」「新しい情報に関する知識を知れた」「周りとの協力して課題を進められた」「グループワークで先生自ら振り分けたり、みんなと進めてくれるところ」などの意見が見られた。 令和7年度以降は、本教育プログラム独自の学生アンケートを実施し、学生の理解度向上につなげていきたい。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	本学における学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度に関する具体的な取組について、公式ウェブサイトや公開情報からは直接的な言及は見つけられない。しかし、関連する情報からいくつかの側面を推測することができた。 学生満足度調査の実施と活用について、本学は、学生の授業改善アンケートを年に2回実施している。アンケート結果は、学生満足度を客観的に把握し、教務委員会において共有され、授業改善に活用されている。年度末には、全学生を対象とした学生生活アンケートも実施されている。これらは、学生の大学生生活全般に対する満足度や意見を把握し、大学運営や教育内容の改善に役立てることを目的としており、間接的に、在学生の満足度が高いことは後輩への推奨度に繋がる可能性がある。また、在学生の声の発信では、オープンキャンパスで、在学生が自身の学生生活について直接話す機会が設けられている。 また、国際交流プログラムの充実を図っている。本学は、国際交流活動を積極的に展開しており、海外研修や留学プログラムを提供している。留学生と日本人学生が交流できるイベントなども開催されている。国際的な学習環境や交流機会は、学生にとって魅力的な要素となり、後輩への推奨に繋がる可能性がある。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	オリエンテーションでの履修の推奨や関連科目での周知を行い、本教育プログラムの履修者数および履修率の向上を目指している。履修者数向上に向けた計画として、魅力的なカリキュラムを提供し、学生の興味関心や将来のキャリア目標に合致した多様な科目を用意することで、履修意欲を高める。また、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学ぶ参加型の授業を増やすことで、学習効果を高め、履修のモチベーションを維持する。 さらに、きめ細やかな指導を通じて、学生一人ひとりの学習状況を把握し、履修をサポートすると共に、全学教育・キャリア教育センターが実施するキャリア支援と連携し、早期からのキャリア教育やインターンシップを通じて、本教育プログラム履修の目的意識を高める。 履修率向上に向けては、キャンパスアドバイザーによるきめ細かい履修指導を実施し、新入生のみではなく、在学生に対しても、適切な履修計画の立て方や科目の選択方法等を丁寧に指導し、授業外での学習相談や補習を実施して学生の理解度を高め、授業への参加を促している。さらに時間や場所にとらわれない学習機会を提供し、学生の学習継続を支援している。また、出席状況や成績が低迷している学生に対しては早期に相談や指導を行い、履修放棄を防ぐように取り組んでいる。 また、社会においてAIやデータの重要性が増していることに鑑み、今後、必修化に向けた検討を進める。大学の魅力を積極的に発信し、入学希望者数を増やすことで、結果的に履修者数を増加させることを目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラム修了者の卒業は、早くても令和9年度となるため、進路・活躍状況、企業などの評価を現時点で得ることは困難である。本学では、修了認定者について適切に管理する体制を整備し、卒業後の本教育プログラム修了者の就職先や企業での活躍状況を照会・評価する計画である。 本学卒業生の進路については、多様な分野への就職が見られ、大学が公表している過去3年間の主な内定先を見ると、金融、商社、情報通信、不動産、教育、サービス、医療・介護、公務など、幅広い業種に就職している。これは、大学が複数の教育モデルを提供し、多様なキャリアパスを支援していることの表れと考えられる。地域貢献への意識が高い学生もあり、つくば市役所等の地元自治体や地域の企業への就職が見られる。 また、大学院へ進学し、より専門的な知識や研究を深める意欲を持つ学生もいる。 本学では、キャリア支援教育にも積極的に取り組んでおり、企業が求める人材育成につないで、企業から評価されるようさらなる取り組みを進めている。また、国際性をも重視しており、グローバルな人材育成を目指し国際的な視野を持つ人材を求める企業から評価されるよう取り組みを進めている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の教育プログラムは令和6年度に開設であるため、産業界からの評価を得るための修了者を輩出できていない。そのためデータサイエンス教育プログラム委員会を中心に、データサイエンスやAI、情報セキュリティ等のリテラシー教育について、本教育プログラムに期待することや実務に必要な知識・スキルに関する情報の収集を継続的に実施することとしている。 産業界が重視する要素と大学の取組として、実践的なスキル・知識の習得が挙げられるが、本学では、「実学教育」を重視し、ビジネス、情報、デザインなど、社会のニーズに合わせた教育モデルを提供し、産業界の期待に応えることができるものと考えている。これらを大学の取り組みとして、アクティブラーニングや少人数教育を通じて、学生の主体的な学びや思考力を育成する。 本学では、社会のニーズや産業界の動向を的確に捉えたカリキュラムであるか、学生が座学だけでなく、実践的な経験を通じてスキルを習得できる機会が提供されているか、グローバル化に対応できる人材育成が行われているか、学生の主体性や問題解決能力、コミュニケーション能力といった汎用性の高い能力が育成されているか、卒業生が入社後すぐに活躍できる基礎力と応用力を持っているかなどについて検討を積極的に進め、その成果を社会に示していくことで、産業界からの評価を高めるよう取り組んでいく。 今後、企業との連携の強化、卒業生の追跡調査、産業界からのフィードバックの収集を続け、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を反映させていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「全学的なリテラシー教育としての導入」、「専門分野との接続による動機付け」、「体験型学習と実践的な応用の重視」、「文理融合的なアプローチ」などを重視し、本学の設定する履修モデルでの専門分野と結びつくことで、学生は自身の興味のある領域において数理・データサイエンス・AIがどのように役立つのかを具体的に理解し、主体的に学ぶ「楽しさ」を見出す可能性がある。異なる学問分野との接点を示すことで、数理・データサイエンス・AIの幅広い可能性の理解を促し、「学ぶことの意義」を深めるとともに、新たな知的好奇心を刺激し、「学ぶ楽しさ」につなげていく計画である。 また、一部の科目では、外部講師招聘の制度を活用し、AI分野の専門家等による講義を取り入れることにより、多角的な視点から数理・データサイエンス・AIがどのように社会において活用されているか、理解を促していく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本学では、内容・水準を維持・向上させつつ、より「分かりやすい」授業を実現するための取組や仕組みについて、社会の変化や生成AI等の技術発展を踏まえた教育内容の見直しをおこなっている。 「分かりやすい」授業に向けた取り組みとして、一方的な講義だけでなく、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ケーススタディ、反転授業など、学生が主体的に参加する形式の授業を積極的に導入している。これにより、理解度を高め、記憶への定着を促す。学生が自ら考え、発言し、議論する過程で疑問点が明確になり、教員や他の学生からのフィードバックを通じて理解を深めている。さらに、アクティブラーニングの推進のため、チューデント・アシスタントを一部の科目において活用し、学生の学修状況を適切に把握しながら授業を進めている。 また、視覚的な教材の活用として、図、グラフ、イラスト、動画、アニメーションなど、多様な視覚的な教材を効果的に活用し、抽象的な概念や複雑な情報を分かりやすく提示するよう、各教員が工夫している。さらに、多様な表現方法と具体例の提示については、同じ内容でも複数の表現方法で説明したり、具体的な事例を豊富に提示したりすることで、様々な学習スタイルを持つ学生に対応し、理解を深めている。抽象的な説明だけでなく、具体的な例を挙げることで、学習内容が現実社会とどのように結びついているのかを理解できるよう工夫している。

日本国際学園大学 データサイエンス教育プログラム開講科目一覧（令和6年度）

科 目 名	単位数	クラス	担 当 教 員	開講年次	開 講 学 期
情報基礎A 情報リテラシー	2	8	高藤 清美 山島 一浩 パンタ ポーラ 宗像 諭 丸山 雅貴	1年次	春学期
情報と社会	2	4	谷本 茂明 宗像 諭 丸山 雅貴	1年次 1年次	秋学期 春学期
AI・データサイエンス概論 (令和7年度新設)	2	3	倉橋 節也 丸山 雅貴	2年次 2年次	秋学期 春学期・秋学期

※シラバスは、各授業科目毎に作成されており、各クラス共通です・

日本国際学園大学 データサイエンス教育プログラム開講科目一覧（令和7年度）

科 目 名	単位数	クラス	担 当 教 員	開講年次	開 講 学 期
情報リテラシー	2	5	山島 一浩 パンタ ポーラ 笹島 司	1年次	春学期
情報と社会	2	4	谷本 茂明 丸山 雅貴 倉橋 節也	1年次	秋学期
AI・データサイエンス概論	2	3	倉橋 節也 丸山 雅貴	2年次 2年次	秋学期 春学期・秋学期

※シラバスは、各授業科目毎に作成されており、各クラス共通です・

授業科目名 (つくば)情報リテラシー① (21303001)
担当教員名 よさし まつかさ 世 島 司
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 前期
単位数 2 単位
授業形態 講義・実習
履修年次（履修開始可能年次） 1年
曜日時限 火曜3時限

授業の到達目標
【到達目標】 1：速度は十分でないものの、タッチタイピングが行え、自ら文書が作成できる。 2：PCの基本操作をすることができ、また操作に関して説明できる。 3：文書作成ソフトを活用して、書式やレイアウトの文章を作成できる。 4：日商PC検定試験（文書作成）3級の課題を一部解くことができる。 5：次世代のソフト（生成AIなど）の活用方法を理解することができる。 6：情報セキュリティ及びデータ・AI活用における様々な留意事項である法制度やAI倫理について理解することができる。
【履修目標】 1：タッチタイピングを、文章作成に支障ない速さで行えることができ、基本的なソフトは使用することができる。 2：文書作成ソフトを活用して、様々な書式や効果的なレイアウトの文章を作成でき、プレゼンテーションなどの場で示すレベルに仕上げられる。 3：企業実務に必要なIT・ネットワーク知識や技術を説明でき、自己の力でトラブルシューティングができる 4：日商PC検定試験（文書作成）3級の取得できる程度の課題正答率になる。 5：次世代のソフト（生成AIなど）を活用して、ビジネステキストなどを作成することができる。 6： 情報セキュリティ及びデータ・AI活用における様々な留意事項を考慮し、適切に利用できる。

事前・事後学習
【事前学習】 事前に示されたテーマや学習範囲を理解し、基礎的な知識・スキルを身につけておくことが望ましい。(2時間程度) ・今までに学んだ教科書やテキスト、参考文献などに目を通して、概要を理解しておく ・講義で扱うソフトに対する基本的な知識を有しておく ・作成課題などの提示に対して、ソフトやスキルを準備しておく 【事後学習】 講義を通じて得られた知識・スキルなどを用いて、課題解決に結びつくような自分なりの考えを示す。(3時間程度) ・講義中で共有した知識やスキルを自分なりに活用できるようにする ・自分なりの考えを元に、与えられた課題に対して、作業を行い、作品を仕上げるができる ・自分及び他者の考え方を共有し、レポートやプレゼンテーションなどで示せるようにする

授業概要
・正しいタッチタイピングを身につけ、実社会で要求される様々な日本語文書の基礎知識および作成技能を習得する。 ・情報化社会に必要な最低限のIT・ネットワーク、セキュリティに関する知識や技術を学習する。 ・実習に使用するワープロソフトはMicrosoft社のWordとし、授業内容に即した課題（テキストの練習問題やプリントで指示）を出すので演習を行う。 ・近年、急速にAI（人工知能）を活用するシステムが増えており、情報技術の進化とともにスキルや知識を習得し、今まで以上に有益に活用することが望ましい。 ・本講義では、急速に発展する情報化社会におけるスキルや知識を理解し、AIを活用したソフトやスキルの習得を目指していく。

履修条件
1：現在までに高校課程において「情報Ⅰ」の授業を履修した経験がある者が望ましい。 2：情報Ⅰの履修経験の有無にかかわらず、興味や関心を持ってテーマに臨む者が望ましい。 3：情報基礎Aの学びを通じて、現代の社会や将来につながる課題意識を持つ者が望ましい。 4：一般教養や基本スキルとして、情報基礎Aを学ぶことの意義を持つ者が望ましい。

人材育成のためのキーワード
自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル,マネジメントセンス,デザイン力

アクティブラーニングの要素
課題解決型,グループワーク,実習

実務家教員による講義の有無
有

対象資格

授業ナンバリング
Bc1106

科目等履修生・授業公開受入可否
受入可

授業計画	
回数	授業計画
1回	ガイダンス・シラバス確認 ～ IT技術の要素・日常的に使用されるソフトウェアへの理解、Windowsやオフィスなどの基礎知識と理解 ～
2回	情報セキュリティとデータ・AI活用における様々な留意事項 ～ 情報セキュリティの3要素、ユーザ認証、アクセス制御、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例、データ・AI活用における倫理的・法的・社会的問題、個人情報保護法やGDPR、データ駆動型社会におけるリスク・脅威 ～
3回	情報機器への理解 ～ 情報機器の構造理解、インターネットのの構成についての理解 ～
4回	タッチタイピング ～ タッチタイピングの基礎、演習～
5回	文書作成 2 ～ Wordの基本操作2（表の作成と編集） ～
6回	文書作成 3 ～ Wordの基本操作3（図形の作成と編集） ～
7回	文書作成 4 ～ ビジネス文書の種類と基本形式（社内・社外文書） ～
8回	文書作成 5 ～ ビジネス文書の作成（案内状、企画書、依頼文書など） ～
9回	モバイル等で使用されるソフトウェアへの理解 ～ モバイル等で使用されているソフトウェアの基礎知識と理解 ～
10回	生成AIの活用と可能性 1 ～ ChatGPTの入門、活用方法 ～
11回	生成AIの活用と可能性 2 ～ ChatGPTを用いた業務知識とスキル ～
12回	生成AIの活用と可能性 3 ～ AI関連ソフトを用いた課題作成（チームプロジェクト、個別プロジェクト可）～
13回	情報関連ソフトを用いた課題発表 ～ 講義全体のまとめと個人課題の発表等 ～

評価方法
授業参加時の活動（平常点）40％ 授業後における課題（課題点）30％ 学期末試験（学業点）またはレポート（評価点）30％

フィードバック方法
授業後に示される課題に対する自分なりの考えに対してのアドバイス 授業中に行われるワークショップやディスカッションに対する総合的なアドバイス 学期末試験に対するコメント

テキスト
『よくわかるマスター 日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト & 問題集 Word 2019/2016対応』 F O M 出版

参考文献
『日商 P C 検定試験文書作成 3 級完全マスター』 F O M 出版 『日商 P C 検定試験文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3 級知識科目公式問題集』 F O M 出版 『日商 P C 検定試験知識科目公式テキスト ネット社会のデジタル仕事術』 廣済堂出版 講義で用いる資料 高校課程の「情報 I」の教科書など

備考
講義だけでなく、ワークショップやディスカッションなどの活動が多くあります。主体的に参加してください。 知識の集約だけでなく、知識の活用をメインにします。考える意識を持って参加してください。 授業計画は、履修者数や進度によって変わる可能性があります。

授業科目名 (つくば)情報と社会①（23304701）
担当教員名 専任非常勤講師 丸山雅貴
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次（履修開始可能年次） 1年
曜日時限 火曜3時限

授業の到達目標
到達目標：IT分野の学びにおけるストラジ系およびマネジメント系の理解ができ、また自分の知識として活用でき、他者へも共有し、説明することができる 履修目標：どのような業種・職種でも、ビジネスを継続させるためにはICTと経営全般に関する総合的知識が不可欠であるため、基礎的な社会構造を理解するとともにストラジ系の知識を体系的に理解できる 1 現代では、情報通信技術（以下、ICT）が隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいてもICTなくして成立しないため、情報と社会の関係性を理解できる。 2 本講義では、事務系・技術系、文系・理系を問わず、ICTの基礎知識と経営全般に関する総合的知識を修得することを目指していく。 3 到達目標を達成するため、経済産業省主催情報処理技術者試験・ITパスポート試験で取り扱う内容のうち、ストラテジ系（経営全般）およびマネジメント系（IT管理）の分野を中心に学んでいく。 4 本講義の履修を通して、ストラテジ系・マネジメント系の基本的な知識を習得し、現代のビジネス社会がどのように成り立っているかを理解する。 5 IT分野を中心としたビジネス管理の考え方について理解し、説明できることを目標とし、ビジネスマインドを高め、スタートアップ企業をマネジメントすることができる視点を養っていく。

事前・事後学習
事前学習は、授業で出された学習課題やグループワークに向けた準備（3 時間程度）、事後学習は、授業内容のまとめと、質疑などで示された検討事項、レポートに向けた資料検索など（2 時間程度）を行って下さい。

授業概要
・ 社会人として備えておくべき、情報通信技術（ICT）に関する共通的な基礎知識と、企業等における業務を遂行するために必要な経営全般に関する総合的知識を修得する。 ・ 企業における担当業務を理解し、その業務における問題の把握及び必要な解決を図る力を養う。 ・ 安全に情報収集や活用を行うことができるように、ネット上のリテラシーを理解する。 ・ 担当業務において、業務内容の分析やシステム化の支援を行うことができ、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の活用を推進できるようにする。 ・ 企業活動や関連業務の知識を持ち、問題把握及び必要な解決を図るために、システムの考え方や論理的な思考力で、スタートアップ企業のマネジメントに関する知識を身につける。

履修条件
特になし

人材育成のためのキーワード
コミュニケーション能力/協調性,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル,マネジメントセンス

アクティブラーニングの要素
課題解決型,ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション

実務家教員による講義の有無
無

対象資格
高等学校教諭一種免許状（情報） ※資格対象科目は入学年度で異なるため、便覧で資格カリキュラムを必ず確認して下さい。

授業ナンバリング
Bc1108

科目等履修生・授業公開受入可否
受入不可

授業計画	
回数	授業計画
1回	オリエンテーション・ガイダンス 情報技術が社会に与えた影響
2回	企業と法務 1 企業活動と経営・組織 知的財産権 セキュリティ関連法規 〜
3回	企業と法務2 労働関係法規・取引関係法規・倫理規定
4回	経営戦略1 経営戦略マネジメント
5回	経営戦略2 ビジネス戦略・技術戦略マネジメント
6回	経営戦略3 マーケティング戦略
7回	第4次産業革命とその影響 IT革命後の社会変化
8回	システム戦略 情報システム戦略・ソリューションビジネス
9回	開発技術の発展 社会変革を起こした開発技術の変遷
10回	ビジネスリソースの活用 人・物・金・資源・情報の複合的活用
11回	プロジェクトマネジメント スタートアップを目指す
12回	サービスマネジメント 情報とサービスが経済活動の中心に
13回	次世代に想定されるビジネスモデル 次世代に求められるビジネスモデル

評価方法
授業への参加状況(リアクションペーパー等) 50%、中間課題 20%、期末試験 30%

フィードバック方法
各講義での質問への回答、課題へのコメントなどを、次回講義の中で行います。 期末試験については、ClassroomやTeamsなどで総合的な評価をフィードバックします。

テキスト
講義内で配布します。

参考文献
書籍名：ITパスポート最速合格術 著者名：西 俊明 出版社：技術評論社 ISBN-13：978-4-297-14645-0

備考

授業科目名 (つくば)AⅠ・データサイエンス概論① (13315301)
担当教員名 専任非常勤講師 丸山雅貴
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次（履修開始可能年次） 1年
曜日時限 金曜1時限

授業の到達目標
到達目標： 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付ける。
履修目標： 数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。

事前・事後学習
事前学習として、授業で出された学習課題やグループワークに向けた準備（3時間程度）、事後学習として、授業内容のまとめ、質疑などで示された検討事項、レポートに向けた資料検索など（2時間程度）を行うこと。

授業概要
この科目では、データ・AⅠ活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値や限界を知り、日常生活や社会、組織でどのように使われているかを学ぶ。そして、データ・AⅠのモラル・倫理・リスク・脅威の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できるようになる。また、データの特徴を読み解き、適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明でき、不適切に作成されたグラフや数字に騙されないスキルを身につける。

履修条件
AⅠ・データサイエンス関連分野に関心を持つとともに、主体的に授業へ参加できること。 一部の授業においてグループワークを実施するため、協調して活動へ参加する必要がある。

人材育成のためのキーワード
コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素
ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無
無

対象資格

授業ナンバリング

科目等履修生・授業公開受入可否
受入不可

授業計画	
回数	授業計画
1回	社会におけるデータ・A I 利活用 社会で起きている変化

回数	授業計画
2回	社会で活用されているデータ 私たちの身近にあるビッグデータ
3回	データと A I の活用領域 サプライチェーンにおけるビッグデータと A I
4回	データ・A I 利活用のための技術 データ解析と可視化の手法
5回	データ・A I 活用の現場 データ科学のサイクル
6回	データ・A I 利活用の最新動向 A I を活用したビジネスモデル
7回	データ・A I 利活用に関するグループワーク ビッグデータによる地域課題の解決
8回	データリテラシー データの種類
9回	データを説明する データ表現
10回	データを扱う データの取得と集計
11回	データ・A I を扱う上での留意事項 ビッグデータ時代の倫理的・法的・社会的課題
12回	データを守る上での留意事項 A I 時代のセキュリティ
13回	まとめ データ・A I 利活用に関するグループ発表

評価方法 授業への参加状況 50%，各回の課題 20%，最終レポート 30%
フィードバック方法 各回の課題への回答に対して，授業内で助言する場合がある。
テキスト 必要に応じて，適宜指示する場合がある。
参考文献 北川源四郎，竹村彰通（2024）教養としてのデータサイエンス．講談社
備考 ・授業の順序は，状況に応じて変更する場合がある。 ・Google Classroomを使用し，ショートレポートや最終レポート等の提出を求める。 ・提出された授業内の課題，ショートレポート等の内容をクラス内で共有し，フィードバック・相互評価を行うことがある。

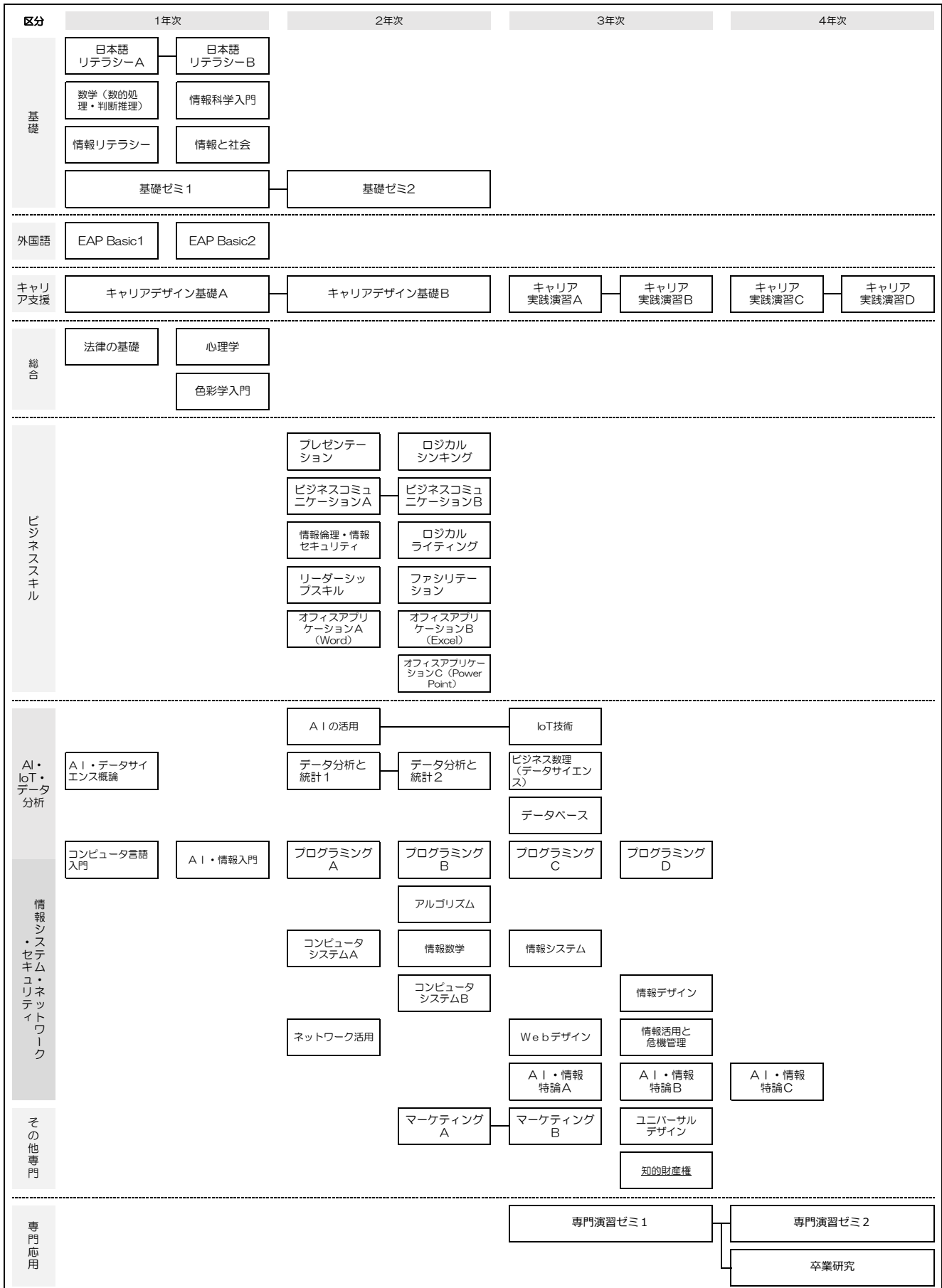
2025 年度

履修・学生生活
ガイドブック



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

カリキュラムツリー A I・情報モデル



授業科目表 AⅠ・情報モデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋		
総合科目	世界史	2		○※							選択必修 8単位以上	
	日本史	2		○※								
	法律の基礎	2		○※								
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※								
	簿記会計入門（簿記4級レベル）	2		○※								
	色彩学入門	2		○※								
	デザイン基礎A	2		○※								
	デザイン基礎B	2		○※								
	心理学	2		○※								
	コンピュータ言語入門	2		○※								
	AⅠ・データサイエンス概論	2		○※								
外国語科目	特別教養講座A	1									必修 8単位	
	特別教養講座B	1										
	EAP Basic1	4	●									
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4			○※							
	EAP Basic (next) 2	4			○※							
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
基礎科目	EI Enhanced Writing Skills	2		○							必修 16単位	
	EA Advanced Speaking Skills	2			○							
	EA Advanced Writing Skills	2				○						
	基礎ゼミ1	2		●								
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学（数的処理・判断推理）	2	●									
モデル入門科目	情報リテラシー	2	●								選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	情報科学入門	2		●							選択 10単位以上	
	情報と社会	2		●								
	AⅠ・情報入門	2		○								
	プレゼンテーション	2			○※							
	データ分析と統計1	2			○※							
	データ分析と統計2	2			○※							
	ロジカルシンキング	2			○※							
	リーダーシップスキル	2			○※							
	ファシリテーション	2			○※							
	オフィスアプリケーションA（Word）	2			○※							
	オフィスアプリケーションB（Excel）	2			○※							
	オフィスアプリケーションC（Power Point）	2			○※							
専門科目	ビジネスコミュニケーションA	2			○※						選択 24単位以上	
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※							
	ロジカルライティング	2			○※							
	情報倫理・情報セキュリティ	2			○※							
	現代ビジネス系	マーケティングA	2				○					
		マーケティングB	2					○				
	コンテンツデザイン系	知的財産権	2						○			
		ビジネス数理（データサイエンス）	2					○				
	AⅠ・情報系	ユニバーサルデザイン	2						○			
		プログラミングA	4				○					
		プログラミングB	4					○				
		プログラミングC	2						○			
		プログラミングD	2							○		
		アルゴリズム	2				○					
		データベース	2					○				
		Webデザイン	2					○				
		情報デザイン	2						○			
		情報システム	2					○				
		情報数学	2					○				
		情報活用と危機管理	2							○		
		ネットワーク活用	2				○					
		IoT技術	2						○			
		AⅠの活用	2				○					
		AⅠ・情報特論A	2					○				
		AⅠ・情報特論B	2							○		
		AⅠ・情報特論C	2									○
		コンピュータシステムA	2				○					
		コンピュータシステムB	2					○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4					●				必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4							●			
	卒業研究	4								○		
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12				○						
	現地報告演習	2				○						
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●							必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●							
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
	キャリア実践演習D	2							●			
	キャリア実践演習E	2								●		

1. 日本国際学園大学学則

第1章 総則

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律26号）の趣旨に則り、知識の啓発、徳性の涵養、技術の練磨の建学の精神を具現する高度の知識、技能を教授研究し、もってわが国文化の高揚発達に貢献するとともに、国際性豊かな人間を育成することを目的とする。

2 本学が設置する学部及び学科は、情報化とグローバル化が急速かつ複雑に進む現代社会の発展に貢献するため、知、徳、技のバランスを重視する建学精神のもと広い教養を身につけたうえで、生活を豊かにする情報のシステム、コンテンツ、メディア及び経営経済に関する資質、さらに、それらを効果的に活用する能力を修得し、自立できる人材の育成を目的とする。

(自己点検評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

第2章 学部、学科、学生定員及び修業年限

(学部、学科)

第3条 本学に次の学部、学科を置く。

経営情報学部

ビジネスデザイン学科

(学生定員)

第4条 本学の学部、学科の入学定員及び収容定員は次表のとおりとする。

経営情報学部

学 科	入学定員	収容定員
ビジネスデザイン学科	200人	800人
計	200人	800人

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は、8年とする。ただし、第22条及び第23条の規定により入学した者の在学年限は、在学すべき年数の2倍に相当する年数とする。

2 学生は、前項に規定する在学年限を超えて在学することはできない。

3 長期履修学生（社会人）として入学した者の修業年限は別に定める。

4 長期履修学生（社会人）として2年次以上の相当年次に編入学した者の修業年限は別に定める。

第3章 職員組織

(職員組織)

第6条 本学に学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

2 前項に定める職員のほか、本学に学長補佐を置くことができる。

(学長)

第7条 学長は、校務を掌り、所属職員を統督する。

(副学長)

第7条の2 副学長は、学長を補佐し、学長の命を受けて校務をつかさどる。

(学長補佐)

第7条の3 学長補佐は、学長の職務を助ける。

(学部長)

第8条 学部長は、学部に関する事項を掌理する。

第4章 教授会

(教授会)

第9条 本学学部に教授会を置く。

第10条 教授会は、学長、学部長、専任の教授をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず学長が必要と認めるときは、教授会にその他の職員を出席させることができる。

3 教授会の運営に関する事項は、別に定める。

第11条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長、副学長及び学部長が掌る教育研究に関する次の事項について審議し、並びに学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 教員の採用、昇任その他身分に関する事項
- (2) 学術研究及び教育計画に関する事項
- (3) 学生の賞罰に関する事項
- (4) 学生の厚生補導に関する事項
- (5) その他教育研究に関する事項

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第13条 学年を分けて次の3期とする。

春学期 4月1日から7月31日まで

夏学期 8月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第14条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 土曜日、日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 創立記念日
 - (4) 夏季休業 8月20日から9月30日まで
 - (5) 冬季休業 12月26日から翌年1月7日まで
 - (6) 春季休業 3月1日から3月31日まで
- 2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項に規定するもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 入学、編入学、転入学、休学、退学等

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第16条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程に修了した者
- (5) 文部科学大臣が指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) 本学において個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で18歳に達した者

(入学志願)

第17条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

(入学者の選考)

第18条 前条に規定する入学志願者について別に定めるところにより、選考を行う。

(入学の手続)

第19条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、指定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに所定の入学時納入金を納入しなければならない。

(入学の許可)

第20条 前条に規定する入学手続きを完了した者について、学長は入学を許可する。

2 入学を許可された者は、保証人連署の上、所定の誓約書を提出しなければならない。

(準用規定)

第21条 前4条の規定は、編入学、転入学及び再入学の場合に準用する。

(編入学、転入学)

第22条 次の各号の一に該当するもので、本学への入学を志願するものがあるときは、欠員のある場合に限り、教授会の意見を聞いて学長が2年次以上の相当年次に編入学及び転入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 大学に1年以上在学したもので、編入学及び転入学を志願する者

(4) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であること。その他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(大学入学資格を有する者に限る。)

(5) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

2 編入学及び転入学試験に関する事項は、別に定める。

(再入学)

第23条 本学を中途退学した者又は除籍された者が退学若しくは除籍(第30条第1項1号の規定による除籍で学納金を完納した者に限る)後2年以内に再入学を願い出たときは、教授会の意見を聴いて学長が、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学、転入学及び再入学者の既修得単位の取扱)

第24条 前2条の規定により入学を許可された者の既に習得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて学長が決定する。

(休学)

第25条 疾病その他やむを得ない理由により引き続き、2ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を受けて休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、引き続き1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

4 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

5 休学期間は、第5条第1項に規定する在学年限に算入しない。

(復学)

第26条 休学期間において、休学の理由が消滅し、復学しようとする者は、学長の許可を受けて復学することができる。

(退学)

第27条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 成業の見込みがないと認められる者にたいしては、学長は退学を命ずることができる。

(転学)

第28条 他大学へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第29条 本学が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより学生が外国の大学又は短期大学(以下「外国の大学等」という。)に留学することを認めることができる。

2 前項の規定により留学した期間は、第40条の在学年限に算入することができる。

(除籍)

第30条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 授業料及び施設設備資金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第5条に規定する在学年限を超えた者

(3) 第25条第4項に規定する休学期間を超えてなお修学できない者

(4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者

第7章 教育課程及び履修方法

(授業科目の区分)

第31条 授業科目は、総合科目、外国語科目、基礎科目、モデル入門科目、ビジネススキル科目、専門科目、専門応用科目、キャリア支援科目、日本語科目、海外留学関連科目及び自由科目に区分し、その授業科目の内容及びその単位数は、別表のとおりとする。

2 資格取得に関する事項は別に定める。

(単位の修得)

第32条 学生は、別表に定める科目区分に従い、定められた単位を修得しなければならない。

(1年間の授業時間)

第33条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(授業の方法)

第33条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第32条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(単位の計算方法)

第34条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間の講義又は演習をもって1単位とする。

ただし、別に定める科目については、30時間の講義又は演習をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間の実験、実習又は実技をもって1単位とする。

(単位の授与)

第35条 授業科目を履修し、その試験に合格した者は、所定の単位を与える。

(試験の時期及びその方法)

第36条 試験は、学期末又は学年末に履修した授業科目について筆記、口述、論文等の方法により行う。

(試験の成績等)

第37条 試験の成績の評価は、S、A、B、C、認定及びFをもって表し、S、A、B、C、及び認定を合格とする。

2 削除

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第38条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協議に基づき学生に当該大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の規定は、第29条の規定により外国の大学等に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第38条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第2項及び第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第38条第1項及び第3項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第8章 卒業及び学位

(卒業)

第40条 本学に4年以上在学し、第32条に基づき124単位を修得し、かつ別表に定める条件を満たした者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

第40条の2 第40条の特例として、第40条の要件を満たした者であっても、在学期間の延長を希望する者については、願い出により、学長は卒業の認定を延期することができる。

2 前項の卒業延期に関する事項は、別に定める。

(学士の学位)

第41条 学長は、前条の規定により卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。

2 前項の学位には、学科区分に従い、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

ビジネスデザイン学科 学士（経営情報）

第9章 入学検定料、入学金、授業料、施設設備資金及び実習料

(納入金の額)

第42条 入学検定料、入学金並びに授業料、施設設備資金及び実習料（以下「授業料等」という。）の納入金は、次のとおりとする。ただし、学校法人東京家政学院が設置する大学、短期大学及び高等学校の卒業生については、入学金を半額とする。

- | | |
|----------------|------|
| (1) 入学検定料 | 3万円 |
| (2) 入学金 | 25万円 |
| (3) 授業料（年額） | 80万円 |
| (4) 施設設備資金（年額） | 35万円 |
| (5) 実習料（年額） | 3万円 |

2 前項第3号の授業料（年額）は、2年生以上の在籍学生に適用し、1年生については71万円とする。

3 長期履修学生（社会人）の授業料は、修業年限分の総額を、登録修業年数で除した額を年額とし、春学期と夏学期、秋学期に分けて納入する。

4 私費外国人留学生及びそれに準ずる学生には、授業料について、別に定めるところにより、その一部を減免する。

5 学校法人日本国際学園の設置する学校に在学している学生及び生徒の姉妹兄弟が、本学に入学する場合の入学金は、入学金の2分の1の額とする。

第42条の2 長期履修学生（社会人）の授業料等は、前条第1項第3号、第4号及び第5号について、修業年限分の総額を、登録修業年数で除した額を年額とし、前期・後期に分けて納入する。

2 登録修業年数より早く卒業する場合の授業料等は、卒業年次に登録修業年数の総額の残額を納入する。

3 登録修業年数を超える場合の授業料等は、前条の規定する額を納入する。

(5年以上在学する学生の授業料の取扱い)

第42条の3 第42条の規定にかかわらず、5年以上在学する学生の授業料の取扱いは、別に定める。

(授業料等の納入期)

第43条 授業料等は、学期の始まる前の次の指定した期日までに納入しなければならない。ただし、入学年度の春学期と夏学期分の授業料等については、入学手続き時の指定の日までに納入するものとする。

春学期と夏学期分 3月31日

秋学期分 9月20日

なお、納入期日が、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、土曜日・日曜日、その他の休日に当たるときは、これらの日の前日とする。

(退学者等の授業料等)

第44条 学期の途中で退学及び転学した者又は除籍（第30条第1項第1号の規定による除籍は除く）された者も、その期の授業料等は徴収する。

2 停学期間中の授業料等は、徴収する。

(休学者の授業料等)

第45条 休学を許可された者及び命ぜられた者については、休学期間中の授業料、実習料は全額、施設設備資金は半額を免除する。

(既納の納入金)

第46条 既納の入学検定料、入学金、授業料等は、返戻しない。

(授業料等未納者の受験資格)

第47条 授業料等を納入しない者は、試験を受けることができない。

第10章 科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第48条 学長は、本学において、特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第48条の2 他大学等の学生で本学において、特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第49条 学長は、外国人で大学において教育を受ける目的で入国し、本学に入学を志願する者があるときは、特別に選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する事項は、別に定める。

(諸規則の準用)

第50条 科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生に対しては、別段の定めのあるものを除くほか、本学の学生に関する規則を準用する。

第11章 賞罰

(表彰)

第51条 学生で学業、人物ともに優れた学生として表彰に値する行為があった者は、学長はこれを表彰することができる。

(懲戒)

第52条 本学の教育の趣旨にそむき、又は本学の規則に違反し、学生としての本分に反する行為をした者は、学長はこれを懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とし、詳細は別に定める。

(命ずる退学)

第53条 前条に規定する退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められるもの
- (2) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第54条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は、別に定める。

第13章 公開講座

(公開講座)

第55条 本学の教育研究活動の成果を広く地域社会に公開し、社会人の教養を高め、文化の向上を資するため、本学は公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。

ただし、令和7年度以前の編入学生及び令和5年度以前の入学生に対する第31条、第32条及び第40条の適用はなお従前の例による。

2 令和6年度入学生について、令和6（2024）年度に下表の旧授業科目の単位を修得したものは、新授業科目の単位を修得したものとみなす。

新授業科目名	単位数	旧授業科目名	単位数
ファイナンシャル・プランニング	2	経済の基礎	2
簿記会計入門	2	会計の基礎	2
ロジカルライティング	2	論理的思考と文章作成	2
EAP Basic 1	4	EB Reading and Writing	4
EAP Basic 2	4	EB Listening and Speaking	4

情報リテラシー	2	情報基礎 A	2
情報科学入門	2	情報基礎 B	2
情報倫理・情報セキュリティ	2	情報倫理	2
現代ビジネス入門	2	経営学入門（現代ビジネスモデル）	2
日本文化・ビジネス入門	2	経営学入門（日本文化・ビジネスモデル）	2
グローバルスタディ入門	2	人文科学入門（国際教養モデル）	2
グローバルスタディ入門	2	人文科学入門（英語コミュニケーションモデル）	2
国際エアライン入門	2	人文科学入門（国際エアラインモデル）	2
国際ホテル入門	2	人文科学入門（国際ホテルモデル）	2
AI・情報入門	2	情報・デザイン入門 A	2
コンテンツデザイン入門	2	情報・デザイン入門 B	2
公共サービス入門	2	社会科学入門	2
キャリアデザイン基礎 A	2	キャリアデザイン A	2
日本語 A1	4	留学生日本語 A1	2
日本語 A2	4	留学生日本語 A2	2
日本語 B1	4	留学生日本語 B1	2
日本語 B2	4	留学生日本語 B2	2

- 3 令和 6 年度入学生及び令和 6 年度入学生の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者は、別表で定められた科目に加え下表の科目を授業科目に加える。

科目区分	科目名	選択・必修	単位数
総合科目	現代の思想・文化の考え方・地理学・社会と科学技術・環境科学・地球と資源・日本国憲法・政治の基礎・健康論・社会学・LA Humanities A・LA Humanities B・LA Humanities C・LA Social sciences A・LA Social sciences B・LA Social sciences C・LA Natural sciences A・LA Natural sciences B・LA Natural sciences C	選択	2
外国語科目	EB Integrating English Grammar into Communication・EB Reading, Writing and Critical Thinking・EI Enhanced Reading Skills	選択	2
基礎科目	多文化協働演習	選択	2

日本国際学園大学学則別表 経営情報学部ビジネスデザイン学科

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
総合科目	世界史		2		
	日本史		2		
	法律の基礎		2		
	ファイナンシャル・プランニング		2		
	簿記会計入門		2		
	心理学		2		
	コンピュータ言語入門		2		
	AI・データサイエンス概論		2		
	色彩学入門		2		
	デザイン基礎 A		2		
	デザイン基礎 B		2		
	特別教養講座 A		2		
	特別教養講座 B		2		

外国語科目	EAP Basic 1	4			
	EAP Basic 2	4			
	EAP Basic (next) 1		4		
	EAP Basic (next) 2		4		
	EB Communication Strategies		2		
	EB Effective Presentation Skills		2		
	EI Enhanced Speaking Skills		2		
	EI Enhanced Writing Skills		2		
	EA Advanced Speaking Skills		2		
	EA Advanced Writing Skills		2		
日本語科目	日本語 A 1	4			
	日本語 B 1	4			
	日本語 A 2	4			
	日本語 B 2	4			
	日本語演習 A		4		
	日本語演習 B		4		
	日本語演習 C		2		
	日本語演習 D		2		
基礎科目	基礎ゼミ 1	2			
	基礎ゼミ 2	2			
	日本語リテラシー A	2			
	日本語リテラシー B	2			
	数学	2			
	情報リテラシー	2			
	情報科学入門	2			
	情報と社会	2			
モデル入門科目	現代ビジネス入門		2		
	グローバルスタディ入門		2		
	エアライン入門		2		
	ホテル入門		2		
	AI・情報入門		2		
	コンテンツデザイン入門		2		
	公共サービス入門		2		
	日本文化・ビジネス入門		2		
ビジネススキル科目	プレゼンテーション		2		
	データ分析と統計 1		2		
	データ分析と統計 2		2		
	ロジカルシンキング		2		
	リーダーシップスキル		2		
	ファシリテーション		2		
	オフィスアプリケーション A (Word)		2		
	オフィスアプリケーション B (Excel)		2		
	オフィスアプリケーション C (PowerPoint)		2		
	ビジネスコミュニケーション A		2		
	ビジネスコミュニケーション B		2		
	ロジカルライティング		2		
	情報倫理・情報セキュリティ		2		

専 門 科 目	現 代 ビ ジ ネ ス 系	経営戦略		2		
		経営分析		2		
		企業論		2		
		マーケティング A		2		
		マーケティング B		2		
		簿記会計 1		4		
		簿記会計 2		4		
		人的資源管理論		2		
		ファイナンス概論		2		
		国際経営論		2		
		経済学概論		2		
		中小企業論（起業論）		2		
		ビジネスプランニング		2		
		リスクマネジメント		2		
		組織論		2		
		ビジネスマネジメント特論 A		2		
		ビジネスマネジメント特論 B		2		
		ビジネスマネジメント特論 C		2		
		会社法		2		
		知的財産権		2		
		ビジネス数理（データサイエンス）		2		
	グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ 系	English through Movies		2		
		English for Tourism		2		
		Discussion Skills A		2		
		Discussion Skills B		2		
		Basic Skills for TOEIC A（TOEIC 初級）		2		
		Basic Skills for TOEIC B（TOEIC 初級）		2		
		English for Academic Purposes		2		
		国際コミュニケーションの基礎 1		2		
		国際コミュニケーションの基礎 2		2		
		異文化理解 A		2		
		異文化理解 B		2		
		グローバルスタディ特論 A		2		
		グローバルスタディ特論 B		2		
		グローバルスタディ特論 C		2		
		Intermediate Skills for TOEIC A（TOEIC 中級）		2		
		Intermediate Skills for TOEIC B（TOEIC 中級）		2		
		Advanced Skills for TOEIC A（TOEIC 上級）		2		
		Advanced Skills for TOEIC B（TOEIC 上級）		2		
		国際関係論 A		2		
		国際関係論 B		2		
		Study Abroad Preparation		2		
		海外留学		12		
		現地報告演習		2		

	国際エアライン・ホテル系	接客英語		2		
		接客英会話		2		
		航空ビジネス		2		
		エアライン業界研究		2		
		エアラインキャリア実践演習 A		2		
		エアラインキャリア実践演習 B		2		
		エアライン特論 A		2		
		エアライン特論 B		2		
		エアライン特論 C		2		
		ホテル総論		2		
		ホテル業界研究		2		
		ホテルサービス実務 A		2		
		ホテルサービス実務 B		2		
		ホテル特論 A		2		
		ホテル特論 B		2		
		ホテル特論 C		2		
	コンテンツデザイン系	イラストレーション 1		2		
		イラストレーション 2		2		
		グラフィックデザイン A		2		
		グラフィックデザイン B		2		
		DTP 1		2		
		DTP 2		2		
		CG 概論		2		
		画像処理概論		2		
		3次元表現 1		2		
		3次元表現 2		2		
		アニメーション基礎		4		
		アニメと映像 A		2		
		アニメと映像 B		2		
		映像編集・制作 1		2		
		映像編集・制作 2		2		
		映像サウンド表現 A		2		
		映像サウンド表現 B		2		
		色彩学		2		
		キャラクターデザイン		2		
		ユニバーサルデザイン		2		
		アニメーション史		2		
		デザイン史		2		
		コンテンツデザイン特論 A		2		
		コンテンツデザイン特論 B		2		
		コンテンツデザイン特論 C		2		

	A I ・ 情 報 系	プログラミング A		4		
		プログラミング B		4		
		プログラミング C		2		
		プログラミング D		2		
		アルゴリズム		2		
		データベース		2		
		W e b デザイン		2		
		情報デザイン		2		
		情報システム		2		
		情報数学		2		
		情報活用と危機管理		2		
		ネットワーク活用		2		
		IoT 技術		2		
		A I の活用		2		
		A I ・ 情報特論 A		2		
		A I ・ 情報特論 B		2		
		A I ・ 情報特論 C		2		
		コンピュータシステム A		2		
		コンピュータシステム B		2		
	公 共 サ ー ビ ス 系	法学概論		2		
		民事法		2		
		多文化共生論		2		
		地域連携概論		2		
		公務員特別演習 A		2		
		公務員特別演習 B		2		
		公務員特別演習 C		2		
		行政教養（人文科学・社会科学）		2		
		行政教養（自然科学・数学）		2		
		政策事情特論		2		
		資料解釈		2		
		行政研究		2		
		行政教養（英語）		2		
		時事問題・国際関係		2		
		数的処理 1		2		
		数的処理 2		2		
		文章理解応用		2		
		数的処理応用 1		2		
		数的処理応用 2		2		
専 門 応 用 科 目		専門演習ゼミ 1		4		
		専門演習ゼミ 2		4		
		卒業研究		4		
キ ャ リ ア 支 援 科 目		キャリアデザイン基礎 A		2		
		キャリアデザイン基礎 B		2		
		キャリア実践演習 A		2		
		キャリア実践演習 B		2		
		キャリア実践演習 C		2		
		キャリア実践演習 D		2		

海外留学関連科目	Study Abroad Preparation		2		
	海外留学		12		
	現地報告演習		2		

経営情報学部ビジネスデザイン学科卒業要件

科目区分	必修	選択	卒業要件 単位数	備 考
総合科目		8	8	
外国語科目	8		8	※日本文化・ビジネスモデルの学生は、「日本語科目 16単位」を修得すること
日本語科目	16		16	
基礎科目	16		16	
モデル入門科目		2	2	※選択2単位は、選択した履修モデルの指定する科目を履修すること
ビジネススキル科目		10	10	
専門科目		24	24	※選択した履修モデル系が指定する専門科目から24単位を修得すること
専門応用科目	8		8	
キャリア支援科目	12		12	
自由科目 (日本文化・ビジネスモデル以外)	—	36	36	※必修及び選択で指定された単位数を超えて修得した単位及び他大学等で修得した単位を含む
自由科目 (日本文化・ビジネスモデル)	—	28	28	※必修及び選択で指定された単位数を超えて修得した単位及び他大学等で修得した単位を含む
総計 (日本文化・ビジネスモデル以外)	44	80	124	
総計 (日本文化・ビジネスモデル)	52	72	124	

2. 日本国際学園大学教育課程及び履修方法に関する規程

(趣旨)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）学則第31条から第37条の規定に基づき履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目)

第2条 授業科目名、単位数、必修・選択の別及び科目区分については、本学学則別表に定めるところによる。

2 授業科目については、前項の規定に定めるものの他、担当教員、開設学期、授業時間（曜日・時限）、授業科目概要、授業目標、履修条件、成績評価方法等授業実施に必要な事項を含む授業計画を作成するものとする。

3 授業科目には、必要に応じてサブタイトルを設けることができる。

(授業計画等の公開)

第3条 前条に定めたものは、学年はじめに公示する。

(履修モデル及び履修モデルの選択)

第3条の2 履修モデルを以下のとおり設定する。

(1) 国際教養モデル

大学等名	日本国際学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要

プログラムの目的

データやAIを活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるためのプログラムを設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成すること。

修了要件

下記の3科目6単位の単位取得により、修了を認定する。

科目区分	科目	単位数
教養科目 (必修)	情報リテラシー	2
	情報と社会	2
総合科目	AI・データサイエンス概論	2

※ このほかにも、数理・データサイエンス・AI分野に関連した選択（オプション）の授業科目を多数開設し、学生の学習意欲に応じた学びを実現している。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム

実施体制

データサイエンス教育プログラム委員会を中心に、関係する部署等と連携し学生の支援を行う実施体制を構築している。

